

東邦大学 脳神経内科



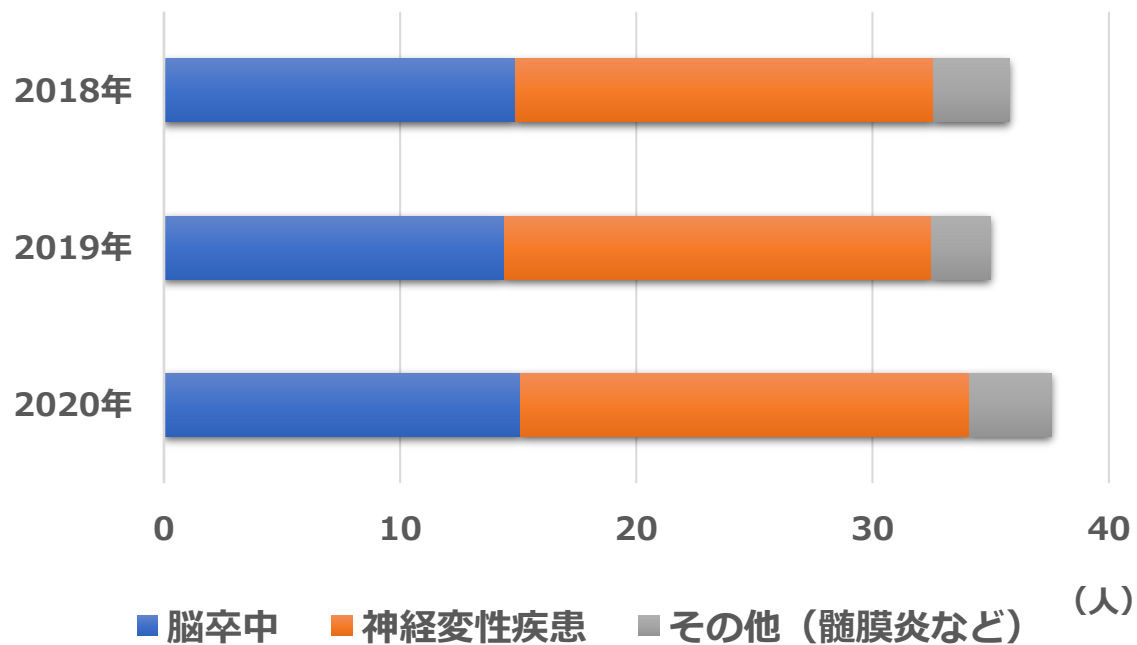
神経学をわかりやすく、深く、そして面白く！



Toho University

脳神経内科における患者@東邦大学

入院患者数（月平均）



脳卒中患者は全体の40-45%

多くの専門外来

外来	入院
ALSクリニック	一次脳卒中センター（Primary Stroke Center）
パーキンソン病・運動障害疾患クリニック（2021年4月～）	
多発性硬化症・視神経脊髄炎外来関連疾患外来	
もの忘れ外来	
脳卒中外来	
英語対応外来	

バランスと専門性を重視

ALS clinic プラットフォーム

基礎研究

Human connectome project (花城) **科研費**
NAIP-biomarker (狩野) **科研費**
iMG project (渋谷、狩野) **AMED**

臨床研究

PLSFRS validation study (柳橋)
cyborg therapy HAL (森岡)
Columbia muscle cramp study (澤田)
ALS Café study (平山)
ALS cough assist (瀧本)

ALS治験 → 登録者数世界**6**位

iPS細胞ーボスチニブ (2022年5月予定) **AMED**
メコバラミン
エダラボン
ラブリズマブ
SAR443820
ゼオマイン(ボツリヌス)
家族性ALSの核酸医薬



サイボーグ治療



上肢アームサポート開発
(東京工業大学)



ロボットを使った患者会
(Ory研究所)

脳神経内科の進歩

脳梗塞

血栓溶解療法から**血栓回収**療法の時代に！

片頭痛

抗CGRP抗体の登場で発作回数が激減！

パーキンソン病

新規薬物治療で**天寿を全う出来る**病気に！

多発性硬化症

疾患の再発を遅らせる**DMD**の登場！

重症筋無力症

難治性症例に対する**分子標的薬**の登場！

脊髄性筋萎縮症

アンチセンスオリゴヌクレオチドで運動機能が改善！

米国式教育システム導入

臨床参加型臨床実習ベッドサイドティーチング

病室を回診



- 病室に入れずに廊下に医師、学生があふれている
- 患者間のプライバシーも保てない



カンファレンスルームで診察



- 研修医によるプレゼンテーション後、同意を得られた患者さんに、カンファレンスルームに来ていただく。

**患者退室後、全員でディスカッションし
診断・治療方針の決定**

専攻医期間のイメージ



東邦大学

パーキンソン病
筋萎縮性側索硬化症
多発性硬化症
ギランバレー症候群

脳卒中、認知症
+ common disease
(頭痛、めまい、しびれ)

筋強直性ジストロフィー
Duchenne型筋ジストロフィー
筋炎など



国家公務員共済組合 連合会三宿病院 (世田谷区)

国立病院機構 東埼玉病院



自分達が苦勞した時間よりも**短時間**で**効率よく**成長できる環境！



A hand holding a pen pointing to a graph on a document. The graph shows several curves on a coordinate system with axes labeled from 0 to 160. The background is a blurred document with text and a graph.

専攻医に対するサポート

- 毎月1、2回、医局会時のラボミーティング、大学院生指導
(大学院連携コース：通常の後期研修プログラム+1年延期)
- 国際学会、国内学会は各年1回ずつ、学会費は3学会まで教室がサポート
- 定期的な個人面談
- 充実した休暇



神経学をわかりやすく、深く、そして面白く！

特設サイト
入局希望の方へ
医療関係の方へ

臨床研修のご案内
初期/後期

民間医局
レジナビ Web

LIVE TODAY FOR TOMORROW
ALSの情報サイト

岩崎教授がプログラム委員を務める
サイトです

関連リンク

お問い合わせ先
東邦大学医療センター

後期研修・入局向けのWEBサイトのお知らせ

入局を希望する方向けの専用サイトを公開しました。
先輩医師のインタビューや教育・研修内容などを掲載しています。



後期研修・入局向けのWEBサイトはこちら

東邦大学 神経内科

検索

全国の医局情報をピックアップ！

東邦大学 医学部 脳神経内科
東邦大学医療センター大森病院

神経学を分かりやすく、深く、そして面白く
野野 修 先生

東邦大学の脳神経内科は、1960年に日本神経学会が設立される前から存在していた、非常に歴史のある教室です。一方で現在の教室員の平均年齢は30代前半と非常に若く、日々活気に満ちあふれています。当院は東京オリビック・パラリンピックの開催を契機として開設が進められている羽田地区を含めた人口約70万人の大田区で、唯一の大学病院です。日本全国、また国外からも多くの患者さんが来院し、最適な診療を提供しています。治療・研究も積極的に実施しており、その成果をグローバルに情報発信し、医療で苦しむ患者さんの回復のために努めております。

【教育面での特徴】 当科の教授陣は、研修医のプレゼンテーションの後、患者さんに広いインフォランス室に来ていただき、大勢の学生や研修医の前で野野教授が診察します。難しいとされている臨床神経学を、深くして面白いコメントやアドバイスをもちに研修医や学生に分かりやすく指導しています。自然と神経学への興味や学ぶような雰囲気があり、若い先生も自由に発言しています。また近年、東京工業大学と医工連携を活発に展開しており、医療現場からの新たな価値の創造や、SDGs（持続可能な開発目標）への取り組みも積極的に行っています。

【臨床面での特徴】 パーキンソン病、器質性側索硬化症（ALS）、多発性硬化症、アルツハイマー型認知症といった変性疾患から脳卒中に代表される急性期疾患まで、幅広く診療しています。入院患者さんの割合は、神経変性疾患と脳卒中が半々で、神経学を学ぶ上で非常にバランスが良いです。また、特徴的な診療としてALSクリニックが挙げられます。呼吸器内科医、リハビリテーション医、胃腸造瘻医、専門看護師、呼吸ケア、栄養士、ソーシャルワーカー、治療コーディネーターなどが同じ時間帯に集まり、過酷な移動が困難なALS患者さんに対して必要な治療・ケアの一環の受診で済むような診療体制を整えています。これは欧米では標準的な診療形態ですが、わが国では行われていないため、当科のALSクリニックが全ての神経変性疾患の診療モデルになることを目指しています。また、リハビリテーション科と協力し、HALを用いたサバイブ治療で患者さんの歩行改善を目的とした診療を行っています。その他、ALSシンポジウムやALS Cafe webinar と称して全国規模の患者会も開催しており、毎回多くの患者さんやご家族が参加しています。

【専攻医研修プログラム】 最初に当科あるいは基幹施設（済生会横浜市東部病院など）の後期研修医を選択していただきます。当科のレジデントの場合は、4年間のうち関連病院である国公立公務員共済組合連合会三宿病院（世田谷区）、国立病院機構東埼玉病院への出向も含まれています。そして卒業4年目に内科専門医、7年目に神経内科専門医取得を目指します。またプログラムの中で大学院への進学も推奨しています。なお、経歴・出身校、お子さんが小学校に入るまでは当院は免除としており、そういった働きやすい環境から教室員の約4割が女性医師です。専攻医のみならず、学生からキャリアのある先生まで、どなたでも大歓迎です。

文責：平山 剛久（医局長）

HOSPITAL DATA
東邦大学 医学部 脳神経内科（東邦大学医療センター大森病院）
〒143-8541 東京都大田区大森西6-11-1
問い合わせ ▶ yurika.okuma@med.toho-u.ac.jp
HPにはここの2次元コードから ▶

医師	27人
准医師	15人
専攻医	7人

39 DOCTORS MAGAZINE 2020年12月号



Doctor's Magazine 2020年12月号

教室説明会・紹介→HPでご確認ください。

